

第613回番組審議会報告  
2016年11月22日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤卓己委員 津村記久子委員 中野健二郎委員  
東野博昭委員 細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 浜田取締役 宮田取締役  
虫明ラジオ局長 浜田プロデューサー 大牟田コンプライアンス室長兼  
番組審議会事務局長

◆審議事項

ラジオ番組「with Tigers MBSベースボールパーク みんなでホームイン！」  
2016年11月3日（木・祝）18:00～19:30

について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- \*スポーツの番組というよりも「ヤングタウン」のような、いわゆるトークバラエティーがたまたま野球の話題を並べてやっているような楽しさがあった。
- \*興味深かったのは天神橋筋商店街での街頭インタビュー。阪神ファンがそれほど出てこなかったのもおもしろかったし、その多彩な内容には日本の野球文化の広がりを感じた。
- \*日本ハム・大谷選手のエピソードに触れてリスナーに「検索してみてください」と呼びかけたのはとても新鮮で、ネットを使った“資料が見えるラジオ”ができるのでは？と思った。
- \*野球のことはくわしくないのですが、社交場の大人のような会話についていけないところはあったが、あらためて阪神タイガースは関西の人の“教養”であり、野球は国民の“教養”なのだと思った。

- \*出演者全員、知識が豊富で話がどんどん広がる。チームワークの良さを感じた。
- \*ナイターオフでも野球の情報に触れていたい人に聴き続けてもらえるかどうかは、番組で取り上げるうんちく、情報にどれだけ新しさ、深さがあるのかにかかっている。
- \*街頭インタビューは、よくぞこれだけプロ野球にいわく因縁のある人たちから話を聞いた、と言えるくらい中身が濃く、驚いた。
- \*キャンプ地からの中継や街頭インタビュー、それに川柳と、長時間のトーク番組の中でバラエティーに富んだ企画を楽しめた。
- \*ナイターオフシーズンの長丁場に、月曜を除くほぼ毎日放送するだけに、特に春季キャンプまでの12月、1月は新鮮なネタや情報が少なく、番組づくりに工夫が必要だろう。
- \*「リレー川柳」のコーナーは、疑問に対してスタジオですぐ答えが返ってくる。リスナーとのコミュニケーション、つながりが魅力の一つであるラジオの醍醐味だと思った。
- \*むずかしいのは、広く一般向けの内容にすればリスナーが満足するというものではないということ。ラジオはやはりブロードキャストというよりもナローキャスト。コアなリスナーをどうつかんでいくかが問われている。
- \*この番組でアナウンサーと解説者の相性を見ながら、そのやりとりのおもしろさ、楽しさを引き出し、ナイター中継での他局との差別化につなげてほしい。

#### 【番組制作者側の説明、質問への回答】

- \*番組は去年に続いて2年目を迎えた。12月、1月と確かにプロ野球は新鮮なネタ、情報は少ないが、例えば少年野球の現場に解説者が出向い

て質問に答えるコーナーをつくるなど、さまざまな企画で対応している。

\*ナイターオフシーズンにも野球の情報に飢えている方がたくさんいて、タイガースファンだけでなく、カープファンの方とか、それこそradioで全国の野球ファンに聴いていただいている。ありがたいことに、リスナーからのメッセージはタイガースファンという枠を超えていて、阪神は今後どうしたらいいのかということ、こちらが逆にカープファンの方に尋ねるといった、そんなやりとりをしたり、タイガース以外のファン、全国の方々との交流ができていくような感触はある。

\*たとえば、日本ハムファイターズの本拠地、札幌ではファンが年齢、性別関係なく、ファイターズを熱心に応援している。野球文化がすごく成熟しているのをひしひしと感じられて、阪神ファンの目から見てもうらやましいほど。何か阪神ファンのほうがちょっと置いていかれてはいないかという危惧を感じたりもする。小さい子どもや女性に好かれるプロ野球であれば、まだまだ可能性があるということ、この番組を通して探っていきたい。

以上